

旅行取扱状況の概観（令和 8 年 5 月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト、近畿日本ツーリストブループラネット、クラブツーリズム、ユナイテッドツアーズ、KNT 商事の合算額となります。

記

国内旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 96.3%、学生団体は同 96.1%、団体旅行合計では同 96.1%となった。企画旅行については前年比 103.8%となった。この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比 99.0%と前年度を下回った。

海外旅行の取扱額のうち、一般団体は前年比 122.9%、学生団体は同 140.5%、団体旅行合計では同 124.5%となった。企画旅行については前年比 116.8%となった。この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比 118.3%と前年度を上回った。

訪日旅行は、前年比 75.7%と前年度を下回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の 5 月の総取扱額は、前年比 102.4%と前年度を上回った。

【区分別の状況】

1. 国内旅行

国内団体については、法人の団体旅行の取扱いが増加したものの、大型団体の受注が減少し、一般団体は 96.3%と前年度を下回った。

学生団体は、クラブ合宿・遠征の取扱いが増加したものの、修学旅行や校外学習の取扱いが減少し、学生団体旅行合計で 96.1%と前年度を下回った。

国内企画旅行については、前年比 103.8%となった。国内自社企画（フリー型商品）では、首都圏・関西圏の都市部の宿泊旅行が伸び悩み、前年比 85.9%となった。クラブツーリズム国内（添乗員付商品）では、関西方面は前年度の万博の反動で伸び悩むも、東海、伊勢、南紀、北陸方面が好調に推移し、前年比 107.1%となった。

以上の結果、国内旅行の総取扱額としては、前年比 99.0%となった。

2. 海外旅行

海外団体については、企業の周年旅行などの大型案件の取扱いが増加し、前年比 122.9%となった。学生団体は修学旅行や語学研修の取扱いが増加し、前年比 140.5%となった。この結果、海外団体旅行合計では前年比 124.5%となった。

海外企画旅行については、前年比 116.8%となった。クラブツーリズム海外（添乗員付商品）は、中東情勢の影響を受けるヨーロッパ方面などが伸び悩むものの、アジア方面が好調に推移したことに加え、ゴールデンウィークに外国船のチャータークルーズを実施したことにより、前年比 117.6%となった。

以上の結果、海外旅行の総取扱額としては、前年比 118.3%となった。

3. 訪日旅行

一部市場において国際関係をめぐる外部環境の影響を受けたものの、東南アジア方面の受注が増加し、訪日個人旅行者向けオンラインサイトでの予約は前年並みを確保した。一方、スポーツイベント関連の団体旅行の取扱いが減少したことにより、訪日旅行全体では前年比 75.7%となった。